



〔海の状況 (10/16 ~ 11/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 10月中旬から11月中旬にかけて平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。
- ・米ノ地先の表面水温… 10月中旬から11月中旬にかけて概ね平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。

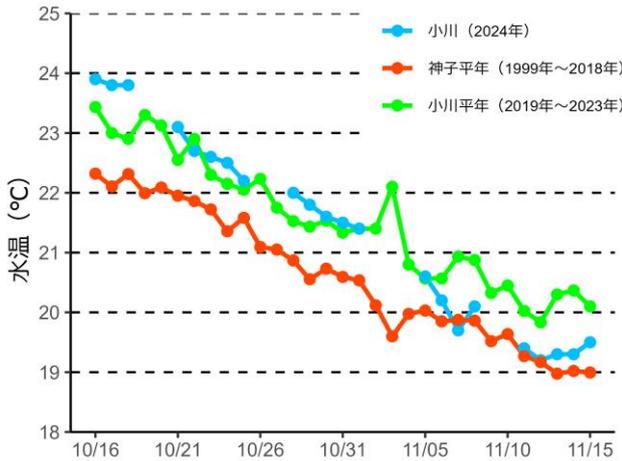


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

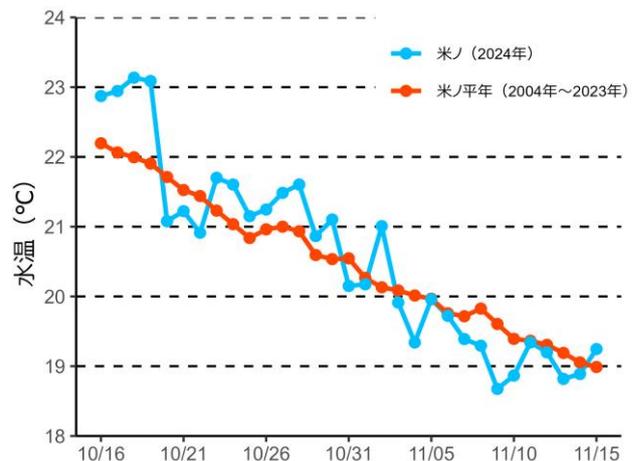


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布について、昨年(2023年)の水深50mは沿岸域に22℃~26℃の暖水域が広がっていたが、今年(2024年)は確認されなかった。水深200mの6℃~12℃の暖水域は昨年同時期と比較して勢力が大きかった(図3)。

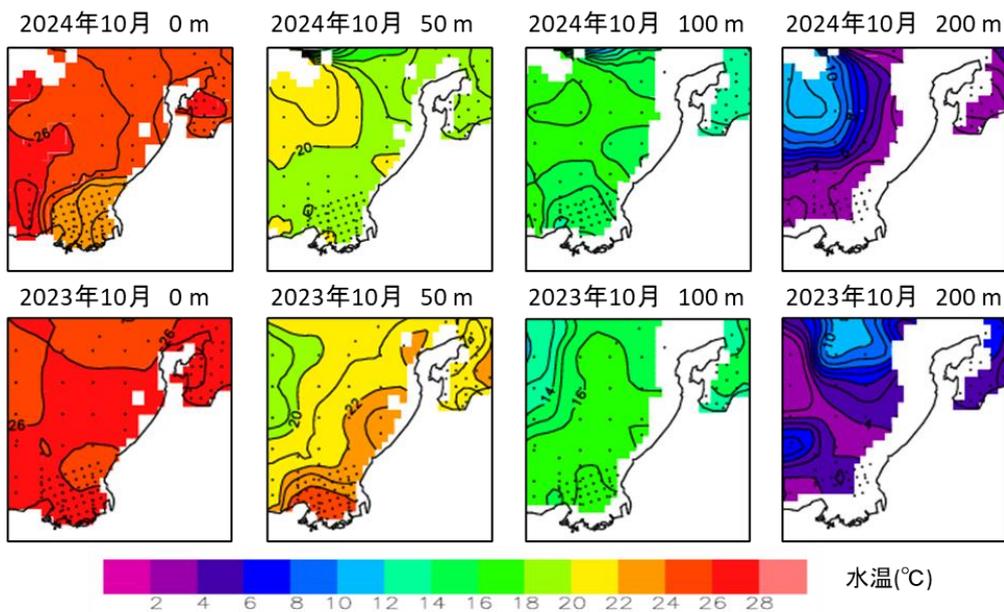


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(水産研究・教育機構の日本海漁場海況速報より抜粋)

(漁場環境グループ 梶原 大郁)

「越前がに」の漁模様

今年も11月6日に解禁となりましたズワイガニ漁の11月15日までの漁況についてお知らせします。
 ○解禁日は2年連続で荒天により出漁を見合わせる事となりましたが、その後は天候に恵まれ、資源も高水準であることから、雌雄合わせて153 t (前年100 t) と昨年の約1.5倍の漁獲量となりました。
 ○雌雄別の漁獲量は、雄59 t (前年同期29 t)、雌94 t (前年同期71 t) となっており、雌雄ともに前年同期を上回っています。
 ○北陸新幹線の福井開業初年度となる今漁期は、漁期を通して「越前がに」が安定的に供給されるものと期待されます。

(漁業管理グループ 元林 裕仁)

〔県内の漁模様：10月〕

2024年10月の県内の総漁獲量は909 tで、前年同月を30 t上回り、平年を60 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は657 tで、前年同月を62 t上回った。シイラ類、サバ等が上回り、サワラ等が下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は187 tで、前年同月を47 t下回った。アカガレイ等が上回り、アカエビ等が下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は65 tで、前年同月を14 t上回った。スルメイカ等が上回り、メダイ等が下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網 (kg)						底曳網 (kg)					
魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
アジ類	13,086	10,577	32,630	2,509	-19,544	アジ類	1,152	1,061	1,250	91	-99
(アジ)	4,731	5,487	11,146	-756	-6,414	タイ類	27,928	22,032	31,129	5,896	-3,200
(小アジ)	7,880	3,420	19,711	4,459	-11,832	(マダイ)	1,766	2,583	2,482	-817	-716
サバ類	66,930	33,277	22,548	33,653	44,382	(キダイ)	25,106	17,502	27,199	7,604	-2,094
(サバ)	62,697	31,533	14,070	31,163	48,626	カレイ類	32,858	27,307	56,330	5,551	-23,473
(ピンサバ)	4,234	1,744	8,477	2,489	-4,244	(アカガレイ)	27,722	18,500	37,332	9,222	-9,610
マグロ類	5,577	675	884	4,902	4,694	(その他カレイ)	5,136	8,807	18,998	-3,671	-13,863
カジキ類	17,182	10,466	2,735	6,716	14,447	カマス	1,916	2,532	7,146	-616	-5,230
カツオ類	12,857	10,813	5,291	2,044	7,566	アナゴ	1,778	1,776	5,367	1	-3,589
ブリ類	14,042	30,839	115,363	-16,797	-101,322	メバル類	1,416	2,307	1,892	-891	-476
(ワラサ)	1,137	150	5,042	988	-3,905	ニギス	23,281	31,007	25,560	-7,726	-2,279
(ハマチ)	2,369	420	6,345	1,949	-3,976	その他イカ	1,448	2,976	1,018	-1,527	430
(ツバス)	8,274	23,539	85,725	-15,264	-77,451	タコ類	1,761	1,826	5,330	-65	-3,569
(アオコ)	2,131	6,679	17,729	-4,548	-15,597	アカエビ	61,933	94,232	79,668	-32,299	-17,735
ヒラマサ	8,529	3,309	5,530	5,220	2,999	その他エビ	7,261	11,419	6,354	-4,158	907
シイラ	296,067	177,382	82,621	118,684	213,445	その他	25,102	37,197	59,682	-12,095	-34,579
サワラ	152,437	270,569	295,302	-118,131	-142,865	合 計	186,777	233,726	279,280	-46,949	-92,503
タイ類	7,209	2,239	6,013	4,970	1,196	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
(マダイ)	4,128	920	3,126	3,208	1,002	魚種名	2024年	2023年	平年	前年差	平年差
(その他タイ)	3,052	1,228	2,830	1,824	222	キダイ	8,951	7,059	6,753	1,891	2,198
カマス	14,611	2,754	9,370	11,856	5,241	アマダイ	4,311	3,595	4,968	716	-657
フグ類	3,610	1,748	4,897	1,863	-1,286	スルメイカ	16,742	2,555	3,918	14,187	12,824
アオリイカ	6,735	7,005	11,331	-270	-4,596	アオリイカ	813	781	1,148	32	-335
ケンサキイカ	150	1,397	932	-1,248	-782	カワハギ	922	1,924	3,575	-1,003	-2,653
コウイカ	655	696	398	-42	257	バイガイ	3,636	1,871	1,366	1,765	2,270
ソデイカ	207	73	1,432	134	-1,225	サザエ	1,708	1,440	1,804	268	-96
その他	38,006	33,098	44,276	4,909	-6,270	メダイ	10,207	16,085	5,039	-5,878	5,168
合 計	657,257	595,105	639,200	62,152	18,057	その他	17,849	15,524	21,834	2,325	-3,985
						合 計	65,139	50,834	50,405	14,305	14,734

※1 平年の値は2014-2023年の10年平均です。

※2 バイガイは2015-2023年の9年平均です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

※4 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、
 その他タイはマダイ、キダイ、チダイ、クロダイ以外のタイ類、
 その他イカはスルメイカ、アオリイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ、コウイカ、
 ソデイカ以外のイカ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ・サゴシ 52 t、マサバ 28 t、マアジ 19 t、ソウダカツオ 14 t、シイラ 12 t

京都府…定置網…シイラ 169 t、サワラ 117 t、サバ類 100 t、アカカマス 30 t、カツオ類 23.5 t

兵庫県…定置網…イワシ 2,498 kg、マサバ 1,905 kg、アジ 1,457 kg、カワハギ 726 kg、ツバス 289 kg

鳥取県…まき網…マイワシ 3,903 t、ブリ類 997 t、マアジ 628 t、マサバ 341 t、ウルメイワシ 224 t

(漁場環境グループ 矢倉 卓磨)

マサバ採卵手法の再検討および実施結果について

〈これまでの採卵手法〉

水産試験場では、令和元年より、マサバの種苗生産技術の確立を目標に研究を進めてきており、毎年1万尾を超える種苗を生産してきました。種苗生産における採卵手法には、水槽内で自然に放卵、放精、受精させる「自然採卵」、人の手で卵と精子を絞り、受精させる「人工授精」の2つがありますが、水産試験場では人工授精で種苗生産を行っています。その際、放卵、放精を誘発させるためのホルモン剤を打注しており、ホルモン剤には、トラフグやマハタで実績のあるHCGホルモンを使用しています。このホルモン剤は、卵巣に直接働きかけ、卵の成熟を促進し、排卵状態まで誘導するものです。

〈採卵手法と使用するホルモン剤の再検討〉

今期の種苗生産においても人工授精を行いました。結果が思わしくなく、共同研究者である福井県立大学等と原因を検討したところ、親魚の成熟の進み具合にばらつきがあったためという結論に至りました。HCGホルモンは、成熟の進み具合に関わらず、強制的に排卵させるため、成熟が進んでいない親魚や進みすぎている親魚からは正常な卵が採取できないこととなります。

そこで、先進事例等を参考に自然な排卵を促すLHRHホルモンと自然採卵を組み合わせた手法をとることにしました。LHRHホルモンは、脳に働きかけ、生殖腺ホルモンの分泌を促すものです。マサバが自身のタイミングで排卵するようになるため、過熟や未熟な卵が少なくなることが期待されます。

しかし、人為的にタイミングを決めることができず、各個体が各々のタイミングで排卵するため、採卵にかかる日数が長くなることから人工授精に比べ作業効率は格段に悪くなります。こういったデメリットはあるものの、必要な種苗数を確実に生産することに重点を置いて、今後は自然採卵を採用することとしました。

〈LHRHホルモンを用いた自然採卵試験の結果〉

6月中旬に雌39尾、雄25尾の親魚にLHRHホルモンを打注しました。その結果、22日間にわたって産卵し、総卵数1,753千個のうち浮遊卵（良質卵）684千個が得られ、孵化仔魚も322千尾を生産することができました。今後も安定生産を実現できるよう努めてまいります。



図1 卵質の確認風景

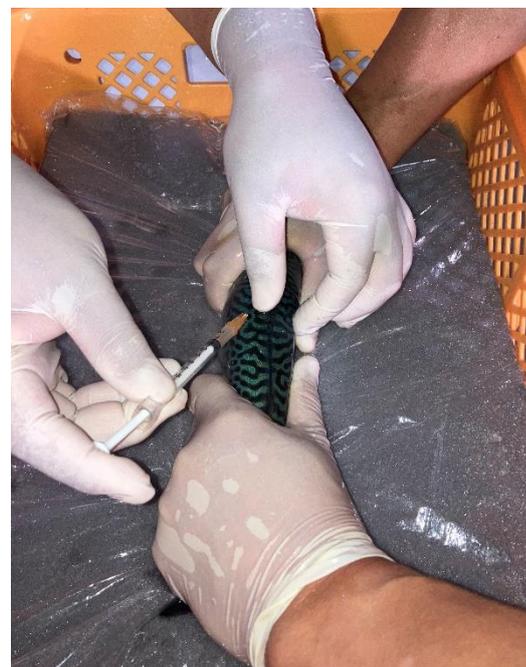


図2 LHRHホルモン打注風景